

## 2019年ネペンテス自生地探検ツアー 実施報告

### 出発前

最近では2014年、2015年、2017年、2018年とボルネオのネペンテスの自生地に行ってきましたが、今年2019年もボルネオのネペンテス自生地探検ツアーに行くことができましたので報告します。

これだけの回数ボルネオに行っていると現地ガイドのマイクとも懇意になり、また昨年のトンプユコン山の下山後に今年行く探検候補地の話もいろいろできて、マイクがそれに向けてツアーの手配や入山許可申請なども行ってくれるということでした。そこで今年は今までの英国の探検手配会社経由ではなく、直接ボルネオ現地ガイドのマイクに探検の手配をしてもらうことになりました。窓口は、今までの英国の探検手配会社とのつながりや今後ボルネオ以外の探検の依頼をすることなども考えて私が行うのではなく、Hさんをお願いすることになりました。

2018年の自生地探検から帰ってきてから1か月もたたない昨年の9月にはもう検討を始めて、入山許可が取れるかどうかなどを調べてもらいました。マライパライは今までは入山許可が出ていなかったのですが、今回は現地ガイドが一生懸命頼んでくれたようで、3名の入山許可ならばとれるということでした。

その他の候補地としては、木登りするタイプの *N.veitchii* を見ることができるマリアウベイスン、こちらもまた最近入山許可が出るようになったマンタポックの3か所を候補地とすることにしました。マライパライの入山許可が3名なので、参加者募集は、2019年8月5日から8月12日(8日間)で、マリアウベイスン(着木タイプの *N.veitchii*, *N.hirsuta*, *N.fusca*, *N.tentaculata*, *N.reinwardsiana* などが見られる)とマンタポック (*N.lowii*, *N.stenophylla*, 蘭などが見られる)の探検とし、私とHさんそして先着の1名が日程を3日間追加してマライパライに行くことにしました。参加費用(航空運賃別)は、マリアウベイスン、マンタポック10日間で5533マレーシアリングギット(約15万5千円 当時)、マライパライも行く場合は、6900マレーシアリングギット(約19万3千円 当時)となりました。

この内容で昨年同様に食虫植物愛好会の浜田山集会や田辺さんのホームページ、私のホームページ(ねぺんらんど)、メーリングリストなどで参加希望者を募ったところ、以前も参加された方5名と初参加1名の6名の参加者が集まりました。

今回のツアーは、マライパライのみテントが必要ということで、マライパライに行かないのであればシュラフとマットの装備で大丈夫とのことでした。

事前支払いや持ち物表の送付など準備は順調に進んでいたのですが、なんと出発の2週間前に突然Oさんより帰りの飛行機の日を間違えていて、一日早くなっていたので、一人少し早めに飛行場に向いたいと驚愕の連絡が入りました。私とHさんは大慌て。最終日はマンタポックから下山してそのままクタキナバルに向かう(下山後の車の移動だけでも3時間ぐらひはかかります)ことになっていたもので、一人だけ先に行くというのは不可

能です。これは困ったということで、ひとまず O さんには一人先に空港に向かうのは不可能なので、飛行機の予約変更かマンタポック登山のキャンセルしかない旨を伝えて対応を考えてもらいました。すると、なんと無事に飛行機の変更ができたのでした。なんでも変更できる保険に入っていたとか…。たぶん O さん本人より、私と H さんのほうが焦っていたと思います……。旅行代の半分は現地で現金払いになっていたのに、今回はネットの両替サービスを利用しました。空港などの両替よりレートがいいし自宅まで送付されるので便利でした。

荷物は、ほぼ昨年と同じ。テント泊用品が重く、念のための飲み物なども入れると 70 リットルの大型ザックで 18 キロ近くになりました。今回もヒルが多い場所ということで、昨年のトンプユコン山登山でその効果が実証できたヒル除け剤の”ヒル下がりのジョニー”は詰め替えも買ってしっかり準備しました。

しかし今回行く予定のマンタポックとマライパライについては、最近入山許可されたこともあって、ほとんど情報がなく、また今回は忙しかったこともあって、あまり登る距離感や標高差を下調べすることもなく、現地ガイドが決めてくれたスケジュールもよく考えずに、いつも通り行けるだろうと思っていました……。このことがあとで予想外の展開を迎えることになるとは少しも思っていませんでした。

## 1 日目

さて、楽しみにしていた探検出発の日がやってきました。5 時半前には家を出発して、6 時前の成田エクスプレスに乗ります。しかし荷物は重い、メインのザックのほかにカメラや予備電池などは別の機内持ち込み用のザックに入れて持ちます。電車はスムーズに進行して 8 時に成田空港に到着。マレーシア航空のカウンターに向かいます。今回はカウンターはすいていました。おととしの探検で空港に遅刻、ゲートへ案内のおねーさんとともに駆け足でぎりぎり到着を設定してくれた G ちゃんも今回は私より先に手続きしたようです。出国審査して、ゲートに普通に歩いて進みます。ここで常連の T さん、H さん、G ちゃんと合流。I さんは事前にコタキナバルに行っているようで、O さんは関西からの出発です。定刻通りに機内案内されて着席。今回も非常口のわきの足元の広い席を選択しました。事前に非常時対応や英語での意思疎通ができるか確認されますが、大丈夫だと答えます。ちなみに H さんはビジネスクラスでした。約 6 時間のフライト、夏休みということもあり子供連れで混んでいましたが、私の席の列は空いていて 3 席使用できました、ラッキー。約 6 時間の飛行、14 時 40 分、コタキナバルに到着、日本との時差は 1 時間、時差が少ないので楽です。しかし入国審査が長蛇の列、最近は中国や韓国からの便が増えているのと、カウンターが少ししか開いていなくて、審査も時間がかかるマイペースで……。1 時間近く入国審査にかかってしまいました。出口から出ると、今回もガイドをしてくれるマイクが手を挙げて待っていてくれました。スラムットプタン、アバ・カバーとマレー語であいさつ。早速車に乗ります。大きな 4 列シートバンに 6 人とマイクと、これまたいつものお馴染みの

運転手さんが乗って、コタキナバルのいつも泊まるホテルに向かいます。しかし今回の探検でこの大きなバンに乗ったのはこの日だけでした。ホテルで先にコタキナバルについていたIさんとも合流。Oさんは午後9時前にコタキナバルに到着予定です。2人ずつ3部屋に分かれて宿泊。部屋に入ってすぐにお買い物。今回はコタキナバルでお買い物などで過ごせる時間がほとんどないので、今日のうちに見ておく必要があります。まずは向いのビルにある本屋へ。マリアウベイスンについての冊子があったので買います。これで事前勉強。はじめてマリアウベイスンがどこにあるか知りました（事前勉強不足がここにも出ています）。結構遠い。そのあとスーパーへ。なんかスーパーは袋入りの荷物は入り口で預けるシステムに代わっていました。良くないことをする人が増えてしまったのでしょうか？ここで土産用のサバティーももう買っておきます。1年分として葉っぱの一番大きいパックを4パック。かさばる。それから明日からの探検用の水、これがとにかく大事。いつお店に行けるかわからないので、大きいボトルや小さいボトル合わせて6Lぐらい買いました。あとはビールと山にもっていくブランデーのようなお酒も買ってホテルに戻ります。

18時半に夕食のために集合。バンで屋根付きの大きなスペースに座席とテーブルがいっぱい



いおいてあって、周りにお店が数件あるマレーシアにはよくあるフードコートのような所につきました。席に座るとすぐにビールを買わないかと売り子さんが来ましたが、今回はビールは頼まずに・・・もうすでにマイクが料理を頼んであるということなので、そのまま待ちます。水槽に一杯カニやエビや魚などを陳列している店などを見に行ったり、真ん中のステージで行われている民族舞踊や吹き矢の体験ショーなどを見て過ごします。しかし料理がまったく来ません。席がすべてうまっていうわけではないので、そう極端に忙しいようにも思えませんが・・・結局小一時間近く待ったでしょうか、でも出てきた料理はすべておいしかったです。やはりマレーシアの料理は口に合います。20時過ぎにホテルに戻ります。その後空港に迎えに行ったマイクから初対面にもかかわらず、

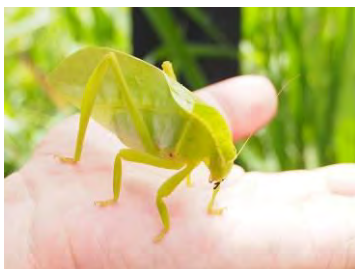


無事Oさんを発見して合流できたとの報告がありました。探検参加者全員揃ったようです。

## 2日目

6時前に起床、6時半にロビー集合で朝食を食べに行きます。以前はホテルに朝食用のレストランがあったのに、そこは切り売りされて別形態のレストランになっていました。ここ

は昔は老舗のホテルだったのですが、最近は新しいホテルが少し離れた地区のほうにできていて、そちらのほうに町全体の活気も移ってしまっています。設備も古いし、ホテルとしての人気はなくなってきているようです。ホテルからすぐの中華系のお店に行きます。私は朝は麺系がいいので、ミンタ ミー インスップ ダック でカモ入りの汁そばをいただきました。これに甘い練乳入りコピ。これを飲むとマレーシアに来たという感じがします。この店では、ダックかポークの中華風つるし焼きがのせられるようです。周りの人を見るとみんな汁なしの油そばのようなコロミーのほうを食べていました。7時半にホテルを出発します。なんでも今日は 6 時間以上車で移動とのこと。しかも大型バンではなくて、いきなり 4WD のピックアップトラック 2 台で行くとのこと。苦しかった Murud への車での移動が思い出されて少し憂鬱になります。しかし、今回はほとんどが舗装道路だったので比較的楽でした。9 時 50 分にケニンガフの街を通過、2014 年にシヌアルートでトラスマディー山に山中一泊で登った後に泊まった街です。あの時は登山とそのあとの長い下山でへとへとになって、ホテルの階段も荷物を持って登れないくらい疲れて大変でした。まさか、今回もそれに近いくらいの辛い登山が待っているとはこの時は露知らず・・・。



ます。13 時に道路サイドのお店で昼食、ミーゴレンやミーインスプシーフードを食べました。ラクサ風でおいしかった。飲み物はジンジャーティー。それからまた車で走って 14 時過ぎにやっとマリアウベイスンの入り口ゲートにつきました。道路に面して Maliau Basin と文字の大きな看板が立っています。車を降りてそこでみんなで記念撮影。この看板には照明がついているので、昨日の夜に来た虫たちがまだ看板の周りに残っていました。数

種類の蛾やクツワムシのように大きいバッタ、アトラスオオカブト（死んだのも含む）があり、みんなで喜んで写真を撮ります。そこからまた車に乗ってビジターセンターに向かいます。途中イノシシなどの野生動物に会います。道路にはところどころ



る野生のゾウの糞が落ちています。運が良ければ野生のゾウに会えるとのこと、さすがロストワールドとも呼ばれる秘境マリアウベイスンです。15時にビジターセンターに到着。大きなマリアウベイスン全体の模型が置いてあります。全体がクレーター状の丘(低めのテーブルマウンテンのような状態)になっていることがよくわかります。大昔の火山のカルデラの跡といったところでしょうか。いまはクレーターの下の縁にいて明日は、

このクレーターの崖を登って、上の面を進んでいくようです。ビジターセンターで入山登録をします。パスポートのコピーと各自入ってきた保険証のコピーを出して書類にサインします。ちょっとおなかが痛くなったのでトイレも。手続きの後、明日からのガイドを紹介してもらいました。今日泊まる建物に向かいます。大きな木造の高床式の立派な建物があって、そこに泊まれるようです。



建物に入ると大きな部屋があって、その両脇に2段ベッドが8個置いてある部屋が、3つくらいつながってあります。ここに私たち6人やマイクや運転手さんたちが泊まります。各自好きなベッドを確保。シャワーは温水ではありませんがそれほど冷たくなかったです。明日から2泊はシャワーもできません。少し洗濯もしておきます。落ち着いたら、明日山にもっていく荷物

と籠に置いていく荷物に分けます。今回の山にはシェルター(山小屋)があるので、2段ベッドがあり、シュラフだけ持っていけばよいとのこと。水もあるけどブラウンウォーターとのことなので、水も3日分4Lぐらい持ちます。宿泊所の周りをみんなで散策します。大きな野生のイノシシが普通に歩いています。池があったり現地の人たちがバレーボールをしていたり、気候的には過ごしやすい気温です。Oさんにヒルがついているのを発見。まだ血を吸われていませんでしたがこんなところでもヒルがいます。スクリュウ型の羽が付いたフタバガキの実がたくさん落ちています。そばの木を見るとたくさんの実が付いています。皆で木から実がくるくる回りながら落ちてくるのを見たいということで、いろいろ落とす工夫をGちゃんがしてくれました。6時前に部屋に戻ります。ここでOさんがコンセントにプラグを差し込んだらとつぜんバシッと音がして電気がすべて消えました。ありゃブレーカーが落ちたかと皆でブレーカーを確認しましたがレバーは落ちていません。ほかのところを探してもブレーカーはなし、マイクを呼んで施設の人にも聞いてもらいますが、復旧方法は分からず。それからはヘッドランプで荷物の片づけをしました。明日からの予行演習ができてよかったです。7時に夕食が取れる建物へ。食事時には我々以外はほかに2名だけ。がらんとしています。我々は別メニューで、鶏のから揚げケチャップ風味、

冬瓜の炒め物、スイカなどでした。おいしかった。我々が別メニューだったわけは後でマイクに聞きました。実はマリアウベイスンでの正規の宿泊料は非常に高額であること。そこで、われわれは食事は自分たちで調達することなどにして、その分安くツアーをしてあげていたこと、宿泊をキャンプにしてもっと安くしてもよかったが、マレーグマが出ることもあるので、安全のためロッジに宿泊にしたことなどを聞きました。8 時からは入山者は必見のスライドショーをみます。小さな映画館のような立派な階段状のシアターで、マリアウベイスンについての歴史、自然などについての解説、どのように保護されてきたかとか、ごみなどはどのように処理されているかなどの自然破壊しないための取り組みがしっかり説明され、入山にあたっての注意事項なども何度もスライドで出てきました。英語版ですが、涼しい部屋での鑑賞を楽しみました。ロッジに戻ると電気は回復していました。準備ができた人から寝ます。私はベッドでウイスキーを飲んで眠りにつきました。



### 3 日目

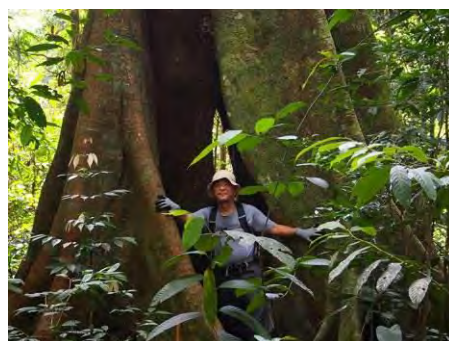
6 時過ぎに起床。7 時に朝食なので朝食をとる建物に向かいます。歩いていると上空でバサバサと大きな音がしました。ホーンビル（サイチョウ）です。直ぐ近くの木のとっぺんとまったようです。カメラを構えて近づきましたが、逃げられてしまい写真も撮り損ねました。しかしここまで近くでホーンビルを見られたのはラッキーでした（その後もホーンビルは時々見ましたがやはり遠い上空を飛んでいるものばかりでした）。8 時過ぎに登山口に 4WD に乗って向かいます。途中木の上で世界最大の蘭の花が咲いているのを昨日見つけたので、そこで車を止めてもらいます。再び車に乗って、8 時 40 分にスタート地点に到着、標高は 525m です。そこから少し下ったところにアガティス・キャンプがありました。ここでポーター



さんに持ってもらう各自の荷物の重さを測ります。私は 15Kg でした、担当のポーターさんはイソン君、よろしくお願いたします。9 時に登り始めました。はじめはなだらかな登りや下りでしたが、途中からきつい登りになってきました。9 時 40 分に一回目の休憩。標高 640m。



525m でした。そこから少し下ったところにアガティス・キャンプがありました。ここでポーターさんに持ってもらう各自の荷物の重さを測ります。私は 15Kg でした、担当のポーターさんはイソン君、よろしくお願いたします。9 時に登り始めました。はじめはなだらかな登りや下りでしたが、途中からきつい登りになってきました。9 時 40 分に一回目の休憩。標高 640m。

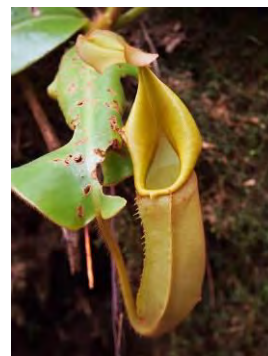


その後もずっときつい登りが続きます。思っていたよりきついルートです。10時20分に845m、40分で200m登りました。現地ガイドが“ゆっくりゆっくり”と日本語で言ってくれます。それにこたえるように私も“パランパラン”（ゆっくり、ゆっくりという意味のマレー語）と言って答えます。かなり勾配がきつくて、設置してあるロープを使ってゆっくり登っていきます。さらには岩の崖にははしごもあって、それを登ります。10時55分に980mまで登りました。出発時にはかなり気温が高かったので、ここまでに500mlの水を消費、Oさんはすでに1L飲んだそうです。11時10分に後から登ってきたポーターさんたちと合流、なんとポーターのイソン君は29Kgもの荷物を担いで登っているそうです。それで僕らよりずっと早いペースで登ってくる、信じられないパワーです。11時45分に1078mまで登りました。この辺が今日の一番標高が高いあたりでしょうか。その後少し登って、そのあとはすごく緩やかな下りや平坦な道が続きます、どうやらテーブル状の山の上のフラットのところに出たようです。13時にネペンテスがあるところに来ました。標高1081m、少し登山道から外れてネペンテスを探します。このあたりの木には、根元に苔のようなものがびっしりついていて、根元が大きく膨らんでいるように見えます。湿度が高いところなのでしょう。



ころに出たようです。13時にネペンテスがあるところに来ました。

標高1081m、少し登山道から外れてネペンテスを探します。このあたりの木には、根元に苔のようなものがびっしりついていて、根元が大きく膨らんでいるように見えます。湿度が高いところなのでしょう。N.reinwardsianaがあります。特徴である壺の中の目玉模様ははっきりしていないものが多いようです。N.stenophyllaもあります。形的にはずっと伸びていなくてずんぐりむっくりした形の壺が多いようです。N.stenophyllaとN.veitchiiの交配種もありましたが、N.veitchiiは小さいのが2-3株見られただけです。木登りN.veitchiiはここにはないようです。



ここでお昼ご飯にします。フライドチキンやゆで卵、クラッカーを食べます。おいしい。



食事後はまた周りを散策、各自おもいおもいに写真を撮ります。14時10分に再び出発、あと2Km歩くようです。道はほぼ平坦か緩い登り下りですが、意外に距離が長く感じられました。小さなつり橋を渡って、15時30分、ようやく Nepenthes Camp に着きました。距離にして7.5 km、6時間半、思っていたより疲れました。Nepenthes Camp、標高は1020m、りっぱな山小屋があり、1階が食事をする場所と、ポーターさんたちの部屋、台所、トイレ、簡易シャワーがあります。2面には壁がありません。2階はベッドルームになって



いて、2段ベッドがいくつも3部屋ぐらいに分かれておいてあります。各自好きなベッドを選びます。ベッドには蚊帳がついていてその中にシュラフを広げて寝ます。各自くつろいで疲れを癒します。少しシェルターから下ったところに川があって、そこで水浴びができるようです。有志の人は水浴びに行つて、きゃあきゃあ大はしゃぎしていました。5時半に夕食、鶏肉のカレー、インゲンと人参の炒め物、キュウリの煮込み、パイナップルとどれもおいしいご飯です。まだ来たばかりなのにガイドのマイクとは来年行くところの候補地の話をします。まだまだ魅力的な自生地はありそうです。8時には各自就寝準備、するとヤマネコ(ジャコウネコ)が来たとのこと。さっき食べた鳥の骨を狙ってきたようです。慣れているようで、ほねをなげてやるとすこしづつ近寄ってきて食べます。最後には、シェルターの床にまで飛び乗ってしまいました。夜中にはすごく激しい



雨が降りました。翌日のことが心配でしたが、朝までには止んだようです。